

## 第2回教育研究評議会議事要旨

日 時 平成25年5月15日(水) 13:30~14:05

場 所 柏原キャンパス事務局棟 大会議室

出席者 長尾, 栗林, 若井, 越桐, 野田, 横井, 石田, 高橋, 田中, 向井, 伊藤, 入口, 鈴木, 久田, 安部, 辻岡, 土井, 山川, 大脇, 林, 吉田(22名)

陪 席 野口監事

傍聴者 田中ひかる准教授

開会に先立ち、長尾学長から第1回教育研究評議会の記録確認が行われた。引き続き、議事の進め方については開催通知の順番に進める旨の発言がなされ、傍聴申請があった1名に対して全ての議題の傍聴が認められた。

### 議題(1) 平成26年度の教員配置について(その1)

長尾学長から資料に基づき説明が行われ、質疑応答の結果、原案どおり了承された。

#### 【主な質疑】

・今回の教員配置にも関わってくると思われる教職大学院の枠組みについて、改革構想検討委員会等で話が進み、夜間大学院の廃止・存続にまで議論が及んでいるようであるが、実際に教職大学院が始動すれば、当事者にある程度の責任が任されることになると思われるので、結論が出てからそれを認めるかどうかではなく、事前に協議をすべきであると考えている。原案を検討する段階で教育研究評議会の議題とするべきではないかとの質疑に対して、教育研究評議会は原案を議論する場ではないため、事態の進捗を見て、適宜諮らせていただくとの答弁が長尾学長よりなされた。

・教職大学院に関わるのは夜間大学院の中核を担っていた教員であることから、夜間大学院の存続が危うくなり、更に、第二部の教育学の教員が教職大学院へ移り、補充も消極的であるように聞こえたことから、夜間学部の存続も厳しいと考えている。天王寺キャンパスでは大学院も学部も実績を出しており、活発に活動を行なっているのに、トップダウンで第二部の教員が教職大学院へ引き抜かれ、教員の補充もないとなると、協力しようにも難しい。大学の発展を考えれば配慮すべきではないかとの発言を受けて、第二部の心情は理解できる。大学組織はトップダウンだけでは運営できないことは十分に理解しているとの発言が長尾学長よりなされた。

### 報告事項(1) 平成25年度客員教員の称号付与について

長尾学長から資料に基づき報告がなされた。

### 報告事項(2) その他

長尾学長から資料に基づき報告がなされた。